学 校 だ よ り

令和５年７月３日(月)　第４号

自ら学ぶ生徒・心の豊かな生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所　さいたま市岩槻区大字岩槻３７５０番地

電話　０４８－７５６－１１１７

学校 Web ページ　https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/

実家の「子育て四訓」

校　長　　細　井　博　幸

本年度も早いもので７月を迎え、あと１３日登校すると夏休みに入ります。４月に西原中学校に赴任し、時の経過とともに学校のよさ、先生方のよさ、子どもたちのよさをより一層実感しております。これも保護者、地域の皆様の御理解、御協力のおかげです。厚く御礼申し上げます。

さて、気が早いかもしれませんが、夏休みの予定はもう計画されていますでしょうか。私は、実家の栃木県那須塩原市に帰郷するのが毎年恒例となっています。実家に帰る度に目に付くのが、実家の居間に飾られた「子育て四訓」という言葉です。いつの頃からかは記憶にありませんが、私の母が飾ったことには違いありません。

「子育て四訓」は、以下のような言葉で構成されています。

１．乳児の時は、肌身離さず	２．幼児の時は、肌を離して手を離さず
３．少年の時は、手を離して目を離さず	４．青年の時は、目を離して心を離さず

この言葉は、ネイティブアメリカンの教えとする説や、山口県出身の緒方甫（おがたはじめ）さんが教育者としての経験から生み出した言葉であるなど諸説ありますが、言葉の内容は、発達心理などの観点から正しい考えであると言われています。

お子さんが、中学生、そしてこれから高校生となるこの時期は、まさに青年の時期への変わり目と言えるでしょう。つまり「手を離して目を離さず」から「目を離して心を離さず」の時期に入ります。

私の中学生時代を思い返すと、私の母は、小学校まではあれやこれやと声を掛け、叱られた記憶もあるのですが、中学生になった途端、パタッと母親に指示されることがなくなったことをよく覚えています。あの時の母は、どのような心境だったのか。私は、「子どもを信じて、手放すこと」を大切にしてくれたのではないかと考えています。

「子どもを信じること」ができないと、あらゆる場面で子どもに口を出してしまいます。結果としては成功につながったとしても、子ども自らが解決すべき問題に、親が口を出すことで、「子どもが考える能力を身に付ける機会」が失われているかもしれません。また、親の考えに子どもが従わない場合には、ぶつかり合い、親子関係が悪化してしまうかもしれません。「子どもを信じること」で、子どもは誰よりも一番に認めてもらいたい親から信じてもらえているという心強さを感じるのではないでしょうか。その心強さを糧に、子どもは親の手から飛び立ち、親からすれば、子を手放すこととなるのではないでしょうか。

私の人生を振り返ってみますと、民間企業に就職してから通信教育で小学校教諭の免許取得を目指したり、３０歳から教員になったりと両親には心配ばかり掛けてきたような気がします。しかし、どんなに困難な時でも、自分の考えをしっかりと受け止め、常に応援し続けてくれた両親には、いくつになっても足を向けて寝られないという思いと尊敬の念に溢れていることに、自分は幸せであると感じています。今では、盆と正月くらいしか会わず、電話で連絡することも少ない親子関係ではありますが、まさに「心離さず」。心だけがつながった親子関係となり、私は自立できていると言えるのかもしれません。

最後に、子育て四訓は、親向けの言葉ですが、子どもに向けた続きがありますので、御紹介します。

> 小学生は暗くなる前に帰りなさい。中学生は暗くなったら帰りなさい。高校生は日付が変わる前に帰りなさい。大学生は盆と正月くらいは帰りなさい。大学院生は帰れる家があることに感謝しなさい。社会人になったら、子どもが安心して帰ってこられるような家を、今度は自分がつくれるようにしなさい。